

令和2年10月12日

報道関係者 各位

愛知県幸田町から大凧の寄贈について

標記の件について、下記のとおり寄贈式を行いますので、お知らせします。

記

- ・日 時…10月16日(金) 午後4時30分～
- ・場 所…市役所 本庁舎 大屋根広場 ※雨天時は玄関ホール
- ・内 容 島原市新庁舎落成記念及び姉妹都市交流提携3周年を迎え、愛知県幸田町伝統の大凧の寄贈の申し入れがあり、島原市として、大凧の寄贈に関し受け入れを快諾し、その大凧を庁舎1階に展示することで、姉妹都市幸田町の深い伝統的文化に触れることにより、さらなる友好を深めるとともに、末永い交流を深めることに寄与する。
また、愛知県幸田町では毎年1月に「こうた凧あげ祭り」が開催され、大凧が大空に揚げられている

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原



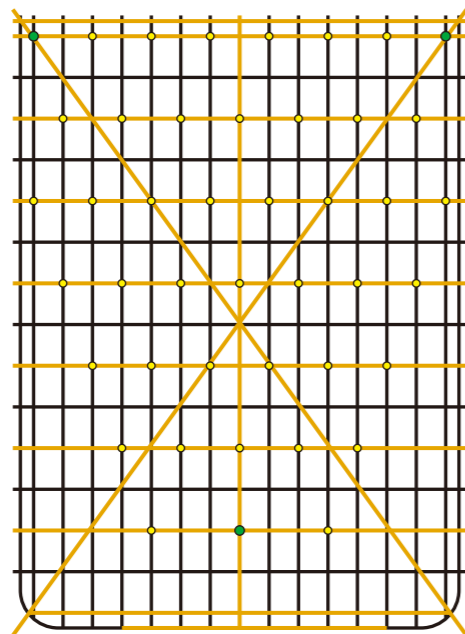
担当：島原市秘書人事課 秘書広報班 担当：宮崎
電話：0957-62-8010（直通）
E-mail：hisho@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

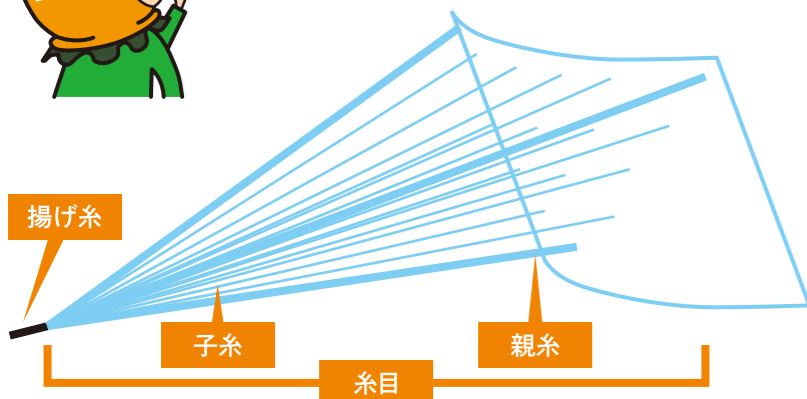
大凧の説明

凧は「骨組」「凧紙」「凧糸」から成ります。骨組は竹を材料とし、「真竹(まだけ)」と「女竹(めだけ)」という竹を使用します。真竹は、細く割って削りヒゴという状態に加工し、組み合わせます。柔らかくてよくしなる女竹は、ヒゴで組んだ骨組の補強をします。竹と竹は糸で縛って固定します。できるだけ軽くすることが基本です。



令和2年 凧(松平忠房)
 ヒゴ — 縦用(381.9cm×17本)、横用(287.4cm×17本)
 厚み、幅(2mm×8mm)、(4mm×25mm)
 女竹 — 横用(287.4cm×10本)
 糸 ●親糸(3本)、●子糸(41本) 縦+横=1.34

凧紙は和紙を貼り合わせて使用します。下絵を描き、墨で輪郭を描き、そして色を付けます。絵の具は、大空で太陽の光により最も美しく見える染料を主に使用します。骨組と凧紙はノリで接着します。



凧糸は、人が引っ張る「揚げ糸」、凧の上部両端と下部中央の3ヶ所に付ける「親糸」、凧全体に付ける「子糸」があります。凧と揚げ糸をつなぐ親糸と子糸を糸目と言い、凧の角度を決める重要な糸です。糸目は凧の高さの3倍程度の長さになるようにします。子糸は、凧の大きさにより本数や付ける場所が異なり、一本の糸に掛かる力を分散します。

大凧の製作には、16畳ほどの大きい物ですと半年近くの期間を要します。そして、地域の人々が心を一つにして、和を作り絆を深めることで、町おこしへと導いてくれます。どんな凧でも作者の魂がこもっており、大空に舞う姿には感動を覚えずにはいられません。

※作り方は地域によって異なります。



幸田町よう



祝 島原市さん江



今回、松平忠房が描かれた大凧を製作した幸田町の須美地区の凧の会の皆さんです。大凧の製作のお話も快く引き受けてくださいました。

須美凧の会は、近年のこうた凧揚げまつりにて上位の成績を収める優秀なチームです。素晴らしいチームワークと経験があり、全ての工程を妥協せず全力で取り組んでくださり、両市町の末永い交流を願い見事な大凧を仕上げてくださいました。

【凧絵の人物】松平忠房 ~長崎県島原市と愛知県幸田町の友好の始まりを築いた人物~

深溝松平家6代目当主。元和5(1619)年~元禄13(1700)年父の逝去により14歳で家督を継ぎました。三河国刈谷藩(現愛知県刈谷市)主、丹波国福知山藩(現京都府福知山市)主を経て、寛文9(1669)年、肥前国島原藩初代藩主となります。「九州大名家目付」・「長崎監察」と「九州幕領地預」という重要任務を担います。多才でありました忠房は、神道・国学にも造詣が深かったそうです。元禄13(1700)年没、年82。忠房の遺骨は瑞雲山本光寺(現愛知県幸田町)に埋葬されました。瑞雲山本光寺は、深溝松平家初代松平忠定(たださだ)が享禄5(1528)年に創建した寺院であり、島原藩主でありました深溝松平家歴代当主を埋葬する菩提寺として位置づけられています。

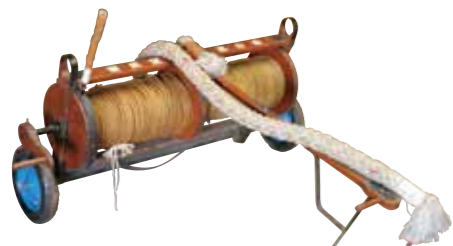
こうた凧揚げまつり

Kota Kite Festival



歴史・概要

こうた凧揚げまつりは、昭和51年度から始まる『新春凧揚げ大会』の開催にはじまり、平成9年度から現在の形である『こうた凧揚げまつり』になりました。地元や企業をはじめ全国からの強者も含め総勢約1,000人が集い、伝統凧や創作凧など自慢の手作り凧100~200基が大空を舞い凧づくりの技を競い合います。平成25年度からは写真コンテストを開催し、長年の活動が認められ平成24年度には経済産業大臣賞、平成25年度には文部科学大臣賞という新たな賞が大凧部門に加わりました。凧揚げを通じて参加者相互の親睦を深め、幸田のふるさとづくりを進めています。



大凧の揚げ糸の先端は糸を出したり巻いたりできる台車があります。

凧揚げ競技(小凧、中凧、連凧、全国の部)



凧の大きさ、種類によって、小凧、中凧、連凧、全国、大凧と部門があり、伝統凧から創作凧まで自慢の手作り凧100~200基が空に揚げられます。

凧揚げ競技(大凧の部)



2畳から16畳の大きな凧を揚げる競技で、地元地区・企業・学校・消防団など20団体から30団体が参加します。

チーム員がそれぞれの配置で、凧や糸を支えてスタンバイします。風を読み、指揮者の号令で一気に走り出し、揚げ糸を引っ張り凧を揚げます。丁寧な作り、息を合わせたチームワークにより、凧は暴れず、静かに大空へ揚がっていきます。引く、緩めるを繰り返すことで凧を操作し、最大150mまで糸を伸ばします。こうた凧揚げまつりは、毎年1月上旬から中旬にかけて開催されます。こうた凧揚げまつりは凧作り並びに凧揚げを通じて、町民や企業の親睦を深め、幸田町のふるさとづくりの一助を担っています。

空を彩る大凧



半年ほどかけて丹精込めて作られた大凧が空に舞い、彩りを添える姿は圧巻です。その美しさと迫力から見守る来場者から湧く歓声が、大凧製作者たちの心を満たし、親睦、交流が深まります。

ステージイベント



凧揚げ競技以外にも、ステージでの和太鼓の演奏や地元中学生によるダンスなど、来場者に楽しんでいただくイベントが会場を沸かせてくれます。